

日本労働組合會議が健全なる労働組合主義の大旗を高く掲げ、我國の組織労働者を統一し、以て一年餘に於ける其の成長機関として造成された日本労働組合會議九州地方協議會の元種なる第百年度大會を迎へた。二十年は九州地方の戦線に於けるのみならず、我國の労働運動が支離の一大試練期に突入した年である。

惟だ、滿洲問題に於て我國の國際聯盟脱退と余儀なきは、爲めに國際平和機構若者と動搖し、加之、労働經濟會議は暗礁を失墜に經り、世界各國は皆、その經濟化の途程として、各國資本は悉く排他的の國家主義經濟の對立を尖鋭にし、この國際的潮流に乗じて、難多反動諸勢力が暴動と思想政治經濟上の極度の不安に社會情勢を激化駭然としてゐる。

「飛行」を諷する資本主義の必然的帰結として、後述の如く、資本主義階級は國家主義の看板に依つて、反動諸勢力と通謀し、必死の苦闘と定檢すべきで、資本主義最後の延命策である。即ち、資本の國家主義對立の尖鋭化は、内には、労働階級に最悪の労働条件を強制し、失業群の過剰する街頭へ更に多量の労働階級を遣放し、労働階級を生命の絶地に追ひ詰めて、只此一途に労働階級の犠牲と迫害に依つて、資本主義の延命策を遂行し、外には、ダンピングに依る海外市場競争の無軌道の競争、互惠條約の廢棄に依る關稅高壓の對立競争並に新植民地獲得の狂暴なる競争により、國際經濟競争は悉く在野勢力の競争に轉換する危機が切迫して、労働階級の苦難は毫厘度にも増大し加重する。

重工業中心の九州地方は資本の國家主義對立の激化とインフレーション政策の並行に依り、所謂「軍事インフレーション」の裡に、労働階級の犠牲と搾取の上に資本の利潤は著しく増大し、此の間の労働階級は、此の裡に、所謂「軍需」以外の産業部門に於ては、殺人的な不況時代の資金に對付され、失業群は依然として、街に散らばり、物價騰貴の重圧は、独り労働階級の上のみに強制されてゐる。労働階級の生活は、インフレーションに依る断絶して、其の母並に確保され得るものは、僅かに、やがて、軍事インフレーションの行詰りと共に、更に、来る大恐慌は、労働階級の生活を根本的に破壊するであろう。

い、る労働階級の深刻なる苦難が、横たつてゐる。末、二十一年の我々の戦線には、益々多難多難の道が續いてゐる。我々は労働運動の最も困難である九州地方の戦線に於いて、左に潮流に順ひて、回界我國を看板にして、労働階級の永遠なる資本の奴隷化せむとする従来の戦術的には、共産党と異なるところなき、異力に依る社會改革を夢想してゐる資本主義の運不存、フアンシヨも徹底的に排撃し、尤に偽裝左翼の浮薄なる思想運動を驅逐して、こゝに毅然として、健全なる労働組合主義の大旗を確立した。

我々は、組織労働者三十萬を擁して、全國の労働組合戦線に統一し、産業別整理へ向て確信ある巨歩を踏み出した。日本労働組合會議の實力と信頼を、労働階級解放の大道を拓き、資本の搾取を克服して、産業に正義を樹立する地方的部署の任務を完全遂行し、益々九州地方協議會加盟団体、親睦と親睦を緊密にし、進んで加盟各団体に増勵して、未組織労働者の教育組織に全力を注ぎ、眞正労働階級の生活権を確守する我々の城砦を強化、拡大し、この國際的及動的訓練に堪へ、労働組合運動の受難を乗り越へ、只此一途、健全なる労働組合主義の徹底のためには、勇往邁進するものである。

昭和八年十二月十三日

日本労働組合會議九州地方協議會第二四年度大會